

群馬県高等学校教育研究会音楽部会「平成30年度第2回授業研究会」

日 時 平成30年11月15日(木)
会 場 群馬県立太田高等特別支援学校
教科・科目 芸術科・音楽
題 材 名 合唱・器楽合奏
～イメージをもって表現しよう～
指 導 学 級 産業科 1年 Aグループ
授 業 者 北爪 優香 教諭



1 開会行事

(1) 挨拶

①清水 郁代 先生(群馬県高等学校教育研究会音楽部会長)

2学期も後半となり、学校行事や進路指導で大切な時期であるが、じっくり生徒と向かい合える時期でもある。音楽部会では、昨年度から特別支援学校での授業研究会も実施している。これは、高校において特別な配慮を必要とする生徒が増えている現状を踏まえ、高校と特別支援学校の先生方が交流をもちながら、そのような生徒の指導や支援について考える機会にしてもらいたいということである。高校では通級による指導が今年度から開始され、特別支援教育は決して特別ではないこと、時代は進んでいることを感じている。本日の授業研究会では特別支援学校という枠に拘らずに、より大きな視野で生徒の指導や支援について見て頂きたい。さらに具体的な言葉掛けや手立てについてなど、授業中の生徒の様子や教員の関わり方などから多くのことを学んで頂きたい。

②北爪 徹 先生(群馬県立太田高等特別支援学校校長)

本校には、様々な特性をもった生徒が在籍している。授業での生徒の様子はもちろん、より幅広く生徒や学校の様子を観て頂きたい。

本校の普通科では、生活に必要な生活習慣や社会性を身に付けるために、日常生活の指導や生活単元学習、作業学習を中心に、自立と社会参加を目指した教育を行っている。産業科では、社会生活や職業生活に必要な態度や能力を身に付けるために、教科に関する学習を幅広く行い、卒業後の社会自立をめざした教育を行い、企業に就職することを目指している。本校ではそれぞれの目標に合わせた教育課程を複数用意している。

どちらの科の生徒も校歌等を大きな声で歌うなど、音楽は大変好きである。本日は授業研究会を通して、忌憚らない意見を頂きたい。

③上原 篤彦 先生(群馬県教育委員会特別支援教育課課長)

県立高校での通級による指導が始まり、群馬県では6ヶ所のサテライト学習室が整備され、群馬方式として全国に誇れるものとなっている。これには、教科の専門性と特別支援教育の視点での指導が必要となるが、本日の授業研究会のように、県立高校と特別支援学校の先生方が一緒に学ぶ機会は、これからの学校教育に望まれていることである。今後を見据えた研修の場としてもらいたい。

④島田 聡 先生(群馬県教育委員会高校教育課指導主事)

普通高校と特別支援学校の生徒が一堂に会し、芸術・文化を共有する「群馬県高等学校総合文化祭」が実施されるなど、既に共生が図られている。その中で、芸術科(音楽)の教員は要となり、その専門性の一層の向上が

必要となる。本日の研究授業では合唱と合奏を題材としているが、教材の選び方や指導の際の手立てなどについて、普通高校と特別支援学校を分けることなく考えてほしい。また、普通高校と特別支援学校のそれぞれを結ぶための技術を高められるよう、参観された先生方が皆で学ぶ機会としてほしい。

(2) 授業説明（北爪教諭）

本時は文化祭に向けての最後の授業であり、これまでは音楽表現の技能に関する指導を中心に行ってきた。そのため本時では、鑑賞も取り入れながら楽曲の曲想の共通のイメージをもち、それを表現に生かせるようにしたい。曲想のイメージを表出する手段は言葉であるが、言葉を自由に用いることが困難な生徒への手立てとしてワードカードを使用する。イメージの共有活動を通し、共通のイメージをもつことで、本番に向けての意識を高め、気持ちを一つにして歌唱できることも期待している。グループ活動での生徒同士のやり取りなど、指導をしている側からは気付けない生徒の様子も踏まえてご意見を頂きたい。

(3) 授業研究係より

研究授業を観る「授業研究の視点」を授業者が本時の学習に合わせて設定し、授業研究係が提示した。研究授業後の授業研究では、各班でその視点に沿って協議を行ってほしい。

1. ワードカードを使用したことは、曲想のイメージを共有することに有効であったか。
2. 曲想のイメージを共有したことは、曲想の特徴を掴んで工夫して表現することに有効であったか。

2 研究授業 学習指導案参照



3 授業研究

(1) 授業者より趣旨説明等（北爪教諭）

生徒はとても前向きに取り組んでおり、普段は自分から皆の前に出ないような生徒も発表していた。ワードカードを分類するという活動はよくできていたが、そこからどのように演奏したいかという表現意図につなげることは難しい生徒もいた。それに対する手立てや支援が必要だと感じた。

また、曲想のイメージを共有する活動を重視したかったため、グループ学習を長く行った。結果として歌唱表現の時間があまり十分に確保できなかったと感じた。

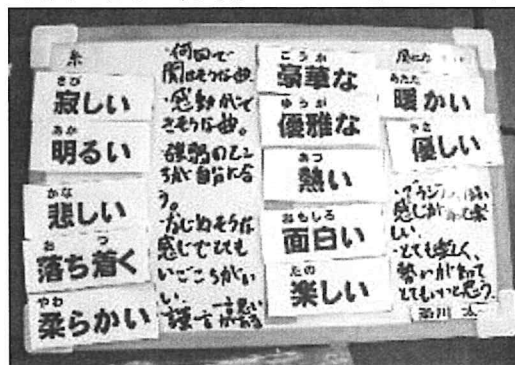
(2) 研究協議①（班別協議）

(3) 研究協議②（全体協議）

1班：兒玉（高崎女子）、伴野（太田東）、橋詰（太田女子）、中澤（高崎北）

・細かな支援をしており、自校でも実践していきたいと思えることが多くあった。

- ・ワードカードを分類する活動は、時間がかかることが分かった。
- ・ワードカードの数が多かったので、精選してもよいのではとも感じた。
- ・ワードカードを使用することは有効ではあったが、自分の言葉で表出できる生徒も多かったと感じたため、自分でも考えられるようにする支援も必要だった。
- ・本時に限ると、ワードカードを選ぶということ自体に目標はないので、今回の場合は言葉を一覧表で示してもよいのではと感じた。
- ・生徒の歌は、授業の最初から2曲の雰囲気が変わっていたので、ビデオに録画してそれを生徒が見ながら意見を出していてもよいのではないかと感じた。
- ・「風になりたい」は、生徒はもっと自由に歌ったり踊ったりしたいのではないかと感じた。
- ・曲想のイメージの共有はできていたが、それを工夫につなげて表現することは難しいようだった。
- ・「糸」と「風になりたい」で時間を分けたり、曲を絞ったり、内容を限定したりする必要もあると感じた。
- ・2曲を本時で扱うとしたら曲想のイメージを共有する学習までとし、表現については次時に行くことも考えられる。
- ・1曲ごとに、例えば「優しく歌う」という言葉が生徒から出た時点で試して歌い、実際の歌で何が違ったのかということや、何を変えたのかということをもとめていくなど、曲想のイメージと表現を結び付けながら学習していくことも考えられる。



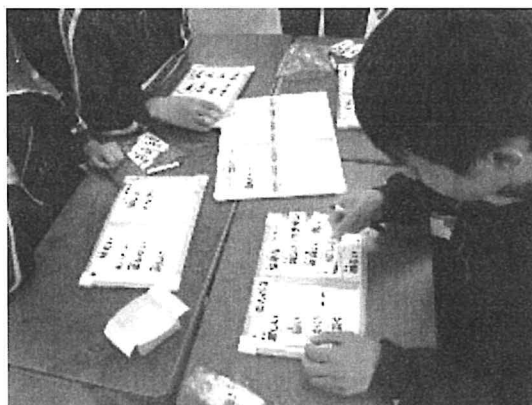
2班：野口（大間々）、藤川（伊勢崎清明）、中村（豊）、前島（あさひ特支）

- ・使用するワードカードは、どのような基準で選んだのか気になった。
- ・ワードカードの枚数が生徒たちにとって適切だったのか、またその内容をどこまで理解しているのかといった実態を知りたい。
- ・ワードカードは生徒の発言や事前学習で出されたものにより決定してもよいと感じた。
- ・ワードカードに対して、事前に指導者が具体的に表現をして示すのも支援の一つだと感じた。
- ・曲想のイメージの共有は生徒同士で行ってよいが、それを具体的な表現にするのは教員主導でもよいと感じた。
- ・生徒同士での話し合いには課題もある。
- ・曲想のイメージは生徒それぞれできていた様子だったが、それを曲の中のポイントごとに指導する必要がある。
- ・強弱表現は、前時にも行っていたようなのでしっかりできていた。
- ・ワードカードの漢字の違いで異なるイメージをもつことがあるため、言葉とイメージを結び付ける指導が必要だと感じた。
- ・それぞれのイメージに対して表現が実際に変化することに注目して指導を行ってもよい。
- ・指導者が表現の変化のパターンを示すのもよいと感じた。
- ・各視点での表現の工夫を、授業をもう1時間設けて追求してもよい。



3班：牧野（前橋東）、勝山（万場）、川上（玉村）、後藤（前橋南）、大小原（高高特支）

- ・ワードカードの分類の様子をみて、生徒のレベルの高さを感じた。生徒同士のやり取りもスムーズだった。
- ・1曲についてももう少し深く学習してもよいと感じた。
- ・ワードカードを配布する前に、生徒の曲想のイメージを聴きたかった。
- ・最初の歌で生徒は音楽と向かい合っていると感じ、感動した。
- ・指導者の身振り、表情、声掛けなどに無駄がない。
- ・生徒の実態をよく把握したグループ分けが行われていた。
- ・ワードカードを使用したことは、曲想のイメージの共通理解をするために有効であった。
- ・たくさんのワードカードがあったが、指導者がよくそれぞれの意味を考え、選んでいた。
- ・表現については、もう少し指導者の例示があればよかった。
- ・座席については、グループによっては指導者に対して背中を向ける形になってしまう生徒もいたため、横並びにするなどの工夫も必要だった。
- ・生徒の楽しんでいる様子が観られた。
- ・「糸」は下のパートを歌っていたので、上のパートを含めて2部合唱の全体像が見えるとよかった。
- ・同じ楽曲で、「暗い」「明るい」など反対のイメージが出された時にどのように指導するかが難しいと感じた。
- ・「楽器をキラキラにする」などは、面白い発想であった。
- ・2曲の創意工夫を考えて表現に生かすためには、時間配分についての課題があると感じた。
- ・ワードカードの選び方は適切であったと感じた。
- ・グループの中で多く出されたワードカードを共通のイメージとするのはよかったが、それとは異なるイメージや少数のイメージを取り上げることで、さらに学習が深まると感じた。
- ・本時では曲想のイメージをもつことはできていたが、それを表現に生かすにはもう少し時間が必要であった。
- ・授業の最後に歌う際に、本時の授業を振り返りながら表現への具体的な言葉掛けを行っていたため、最初の歌とは全く異なる響きで歌えていた。
- ・生徒自身が歌唱表現を工夫しているという意識をもてるのが大切だと感じた。
- ・1時間の中で、さらに歌唱をする時間を設けることも必要だった。



4 指導・助言等

(1) 群馬県教育委員会

①上原 篤彦 先生（群馬県教育委員会特別支援教育課課長）

本当に楽しい授業だった。見ている先生方もほっこりし、生徒も温かい雰囲気の中で授業ができていた。特別支援学校に通う生徒の中にも様々な特性をもった生徒がいる。例えば自閉傾向のある生徒に対しては、音を楽しむ空間をつくるとともに、場合によっては音を遮断しなければいけない状況も考えられる。音刺激に対して我慢をしている生徒がいることも理解してほしい。

文部科学省が発表したデータによると、発達障害のある生徒の割合は小・中学校から高等学校に上がるに従って減少する。障害とは中枢神経系の中に何らかの問題があるということであるため、「治る」という概念ではなく、

年齢が上がるにつれて、生活の仕方、様式、我慢を学ぶことによって顕在化しなくなるということをそのデータは示している。

発達障害の課題は高校生だけではなく、大人の世界や小説などの作品の中でも取り上げられている。片付けられない人や整理できない人などは、もしかしたら発達障害の特性が絡んでいるのかもしれないという視点をもつことも必要である。

そのため、音楽の授業を履修する生徒の中にも、音楽が苦手な生徒もいるかもしれないと考えて授業を組み立ててほしい。授業の環境を作るのは教員であるため、教室の環境が授業に適したものであるのかを考えながら、発達障害をもつ生徒への言葉掛けの方法などを考えてもらいたい。

②高橋 玲 先生（群馬県教育委員会特別支援教育課補佐）

本日の授業を観て、音楽との最初の出会いをどのように演出するのかということが教員の仕事であると改めて感じた。音楽は得意ではないが音楽の授業が好きという思いを生徒がもてるようにし、学校を卒業して音楽に再度触れた時に、以前授業ではできなかったこともできるようになった、という経験をするための土台を作ってほしい。

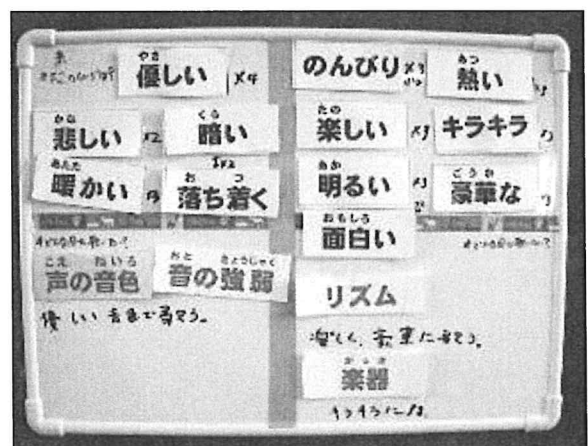
本時の学習について、例えば「寂しい」という言葉をとっても、それぞれの人生経験の中で、それぞれの「寂しい」という言葉の意味や受け止め方は異なる。しかし授業の中で同じ言葉を共有することで、価値観の違いに気づき、皆でその言葉を大切にしていこうと思えるのだと感じた。そうした意味で、グループでのイメージの共有の時間をしっかりと確保できていたことはよかったと思う。実際の表現に結び付けるなど、本時でできなかった学習は、今後の授業展開の中で補っていければよい。目の前にいる生徒たちと音楽を楽しもうという中・長期的な視点で授業計画を立ててほしい。

一方、最後のホワイトボードを使った生徒の発表の場面では、生徒が発言したことを横取りしていたように感じた。毎時間でなくても、ある生徒が発表したことを他の生徒にもう1度繰り返すように促すなど、生徒同士の言葉をつなげていくことが課題であると感じた。また言葉ではなく、音楽で伝えていける場面も増やして欲しい。

③島田 聡 先生（群馬県教育委員会高校教育課指導主事）

本日の授業は、楽曲を歌唱し、感じた曲想のイメージを共有してどのように表現を工夫するかを考えるという点で、普通高校の授業と共通するものであった。北爪先生の言葉の選び方、声掛けが大変自然であり、授業の最初の「元気が良いね、その元気で曲を歌ってみようか」という声掛けが、とても自然な形で学習への導入となっていた。休み時間の生徒の様子を観察し、授業に上手に取り入れた結果である。また、生徒の発言を受けて次の学習の見通しを生徒自らがもてるようにするなど、生徒の思考の流れに沿った授業づくりを行っていた。

曲想を把握するという点で、2曲を比較することでそれぞれの曲想の特徴をしっかりと捉え、言語化することができていた。その際、生徒自身の思いを反映させるためのワードカードは有効に働いていたと考える。その上で、例えば「家族にこの曲をどのように紹介しますか」のように、生徒の生活の場面を想定した発問をすると、曲想の感受に関わる言葉を生徒はより豊かに表現したくなると思う。



また、それぞれのグループでまとめた曲想について、共通して挙げられたイメージで歌唱表現し、その録音を聴く学習活動を設定すると、演奏表現について話し合い、そこで出された意見からさらなる演奏表現の試行錯誤につながる。このように、学習活動が生徒の思考を自然に生み出し、その思考が次の学習活動へ発展するよう授業展開を工夫することが大切である。その際、学習指導案における本時の「個人の目標」では、全ての生徒に「強弱」に関することが挙げられているため、本時では「強弱」に焦点化して授業を行うことも考えられる。

本時を新学習指導要領の観点から捉えると、「音楽Ⅰ」歌唱（ア）の「歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること」を指導する展開であった。学習を通して楽曲に対する自己のイメージを膨らませたり、他者のイメージに共感したりして、創意工夫を伴う歌唱表現につながっていく。参観された先生方には、「特別支援学校の授業」という見方ではなく、自分の学校ではどんな手立てや声掛けが必要となるか、という視点で振り返っていただければ幸いである。

④狩野 等 先生（群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事）

特別支援教育の教育課程には自立活動という領域が加えられており、各教科・領域の中で扱ってよいとされている。生徒の実態を把握して、学習上、または生活上の困難の改善を目的とし、自立を図るために必要な知識・態度を育てるということである。

例えば本時の展開で、自立活動6「コミュニケーション」の（3）「言語の形成と活用に関すること」が扱われている。発達障害のある生徒の言語の理解は、障害のない生徒以上に様々であり、その言葉自体の理解度や理解力の差もあるが、楽曲を基にして言語の形成を図ることが本時の学習の1つの大切な要素であったと感じた。言葉の表出が難しい生徒がワードカードを使用して意思を伝えることと、「この曲想のイメージを表すのはこの言葉である」という自らの言葉の概念をつくることを同時に学習できる授業であった。

グループでの活動では、意見交流が活発に行われているだけでなく、自分と他者で共通点や相違点を比較し、新たな発見をしている様子が見られた。音楽の授業では、生徒は当然音楽によって表現する楽しさを味わえるが、言葉を扱うことでその言葉の概念を創り上げ、自分のものとして獲得していく楽しさも実感することができる。本時の授業ではワードカードを使用して皆と言葉を共有することで、他者の気持ちを考えたり、自分の表出した言葉と他者を通じて再度向かい合ったりすることができていた。特に、2つの異なる曲想の楽曲を扱ったことで、よりはっきりと気持ちの違いを言葉で感じられていたように思う。

また本時のような授業を受けた生徒に対しては今後、初めに曲想のイメージを共有し、それから演奏するという同じ内容で授業を展開することで、学習に対する見通しをよりもてるようになるのではないかと感じる。そうしたことにつなげるために、本時の授業のねらいや目標を掲示するなど、視覚的な支援の工夫を考えてほしい。そうすることで発問の意図が明確になり、生徒に伝える情報が精査されていく。視覚支援と聴覚支援のバランスを考えて使い分けてもらいたい。

（2）群馬県高等学校教育研究会音楽部会

①大熊 信彦 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副会長）

音楽を表現することの喜びや楽しさを改めて実感できた授業であった。それは、日頃の温かい指導や生徒とのコミュニケーションの賜物である。教育という仕事は、生徒の心身の発達という人間の基本的な価値を対象とした営みであり、そこに音楽が大きく貢献するというこれをこれからも意識していってほしい。

②上田 裕信 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副会長）

初めの生徒の歌を聴いて感動し、授業に引き込まれた。言葉にできない感情を言語化すること、そしてそれを

意識することで歌が変わるということを改めて感じた。生徒それぞれで言葉の捉え方は異なるとしても、それを共有することの大切さを示してくれた授業であった。

③松村 正史 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副部長）

生徒の表現力の高さに圧倒された。ぜひこれからも温かい雰囲気ですべての先生と一緒に授業を作り上げてほしい。特別支援学校の授業として捉えるだけではなく、音楽の授業であるからこそ全ての高等学校の授業づくりにつながるという視点をもってほしい。それぞれの先生方も、自校で生徒1人1人を大切にしたい実践してもらいたい。そうした面で、普通高校と特別支援学校の先生方との合同の授業研究会は貴重な学びの場である。

(3) 授業者より補足等（北爪教諭）

研究授業を行ったことで、普段見られない生徒のよい一面を見られたことがうれしく、得るものが多かった。特別支援学校で授業を行っていることも一つの縁であると考えている。その縁を大切に、今後に生かせる授業を考えていきたい。

5 閉会行事

(1) 挨拶

清水 郁代 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会長）

参観された先生方が、生徒の様子から「学び」があったことを感じ、豊かな気持ちになった授業であったと思う。特別支援学校に勤務された経験のある先生も多いが、それが積み重なって教員としての財産になっていることと思う。高校では、音楽の教員は1校1人であることが多いため、授業についての悩みを同じ学校内で相談をする機会はあまりない。しかし、こうした



授業研究会において課題や日頃の悩みなどを共有することで、解決の糸口が見つかることもある。また、高校の授業の中にも特別支援教育の視点を入れるという意味で、本日の授業研究会は大変意義深いものであった。日々悩みはあるだろうが、音楽の先生方には、生徒たちの前に立った時に笑顔で授業をしていって頂きたい。

6 参加者（敬称略 順不同）

上原 篤彦（教育委員会）	清水 郁代（吉井）	大熊 信彦（太田女子）	上田 裕信（太田東）
松村 正史（桐生特支）	高橋 玲（教育委員会）	島田 聡（教育委員会）	狩野 等（教育委員会）
牧野 勇（前橋東）	中澤 玲子（高崎北）	勝山 英城（万場）	兒玉 理紗（高崎女子）
橋詰 詩織（太田女子）	中村 悦子（豊学校）	前島 律子（あさひ特支）	川上 寛子（玉村）
野口 瑞穂（大間々）	伴野 和章（太田東）	大小原美幸（高高特支）	須田 論美（吉井）
内林 美里（伊高特支）	後藤 順子（前橋南）	引田 麻里（市立太田）	藤川あさみ（伊勢崎清明）
車崎 優香（県立伊勢崎）	北爪 優香（太田高特支）	坂本 将（館林女子）	

文責：坂本 将（館林女子）

音楽科学習指導案

日時：平成30年11月15日（木）5校時

場所：音楽室

指導者：北爪 優香(T1)、佐藤 美加(T2)

授業の視点

- ワードカードを使用したことは、曲想のイメージを共有することに有効であったか。
- 曲想のイメージを共有したことは、曲想の特徴を掴んで工夫して表現することに有効であったか。

- 1 題材名 「合唱・器楽合奏 ～イメージをもって表現しよう～」
 (教材：「糸」(作詞/中島みゆき 作曲/中島みゆき)
 「風になりたい」(作詞/宮沢和史 作曲/宮沢和史))

- 2 対象者 産業科 1年 Aグループ (12名)

- 3 生徒の実態

(1) 学級の実態

本時の授業のクラスは、産業科1年生(3クラス)を2グループ(A、B)に分けたうちのひとつで、男子9名、女子3名の構成である。歌唱においては、全体としては声がよく出ていて活気があり、意欲的に取り組むことができる。また声量だけでなく、歌い方の抑揚をつけることも感覚的にはあるが意識することができ、表現することに意欲的である。ただし、音程が不安定な生徒も多い。

また、表現方法を工夫する観点の一つである強弱については、これまでに学習した経験を意識できている生徒もいれば、本校で再び意識できるようにする必要のある生徒もいるため、本時で改めて扱っていきたい。

曲想のイメージを共有する活動は、歌唱指導で取り入れており、たとえば、「この曲の曲想のイメージは何色か。」と問うと、「白」や「ピンク」などの具体的な色を応える生徒が多い。しかし、言語化された曲想のイメージを共有し、表現に生かす活動に重点的に取り組むのは本題材が初めてである。

(2) 個々の実態

	生徒 (性別)	【障害や学習等についての実態】	【本題材に関する実態】 ○音楽への関心・意欲・態度 ●音楽表現の技能(歌唱・器楽) ◎鑑賞の能力(鑑賞)
5組	A (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力は高く、話好きである。先生や友達とも積極的に話に行くことができる。緊張するタイプで、面接や大勢の人の前での発表などは苦手である。 ・国語では、文章を読むことはできるが、文章問題などは不得意である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱曲を聴くのが好きで、普段からCDを持ってきて教室で聴いている。音楽への興味関心は高い。 ●歌唱では積極的に声を出し、音程もよくとれるが、高音域に苦手意識があり、無意識的にオクターブ下で音を取ってしまう癖がある。 ◎曲想のイメージの言語化はできるが、自信がなく困難な様子も見られる。

	B (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・おっとりした性格で、挨拶がしっかりでき会話をする相手によって言葉遣いをコントロールできる。事前に情報を伝えておくと気持ちの準備ができて緊張することも少なくてすむ。 ・漢字の書字読字が苦手である。文章読解の問題は、解答することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○普段から音楽CDを聴くなど、日常的に音楽への親しみがある。 ●大きな声を出そうとする意欲は見られるが音程は不安定である。 ◎鑑賞で知覚・感受する能力が高く、曲想のイメージの言語化は困難なくできる。
	C (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的で教員、友人と積極的にコミュニケーションをとって話をする事ができる。しかし、感情的になることも多い。また、質問をされたときや対話の中で、内容を理解できずに対話が止まってしまうことも見られる。 ・5教科の中では国語が得意である。語彙も多く、漢字も正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットなどを利用して日常的にJ-popを聴いている。指揮者に立候補するなど音楽への関心・意欲は高い。 ●声の大きさに課題があるが、音程は正しく取れる。 ◎曲想のイメージの言語化は問題なく行えるが、それらを表出することに恥ずかしさを感じることもある。
6組	D (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意にそぐわないと興奮状態になることがある。あるいは、固まって動かないこともある。気持ちが落ちつかないとこだわり行動が強く表れる。また、気持ちが不安定になると、検温を繰り返す。集中力が持続せず、活動中に爪をいじる、筆記用具をいじるなどの行動が多々見られる。 ・文章は比較的よく書ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットなどを利用して日常的にJ-popを聴いている。特に慣れ親しんだ音楽への関心・意欲は高い。 ●歌唱では、慣れると正しい音程で大きな声で歌える。慣れない最初の内は音程の確認で飽きてしまうこともある。 ◎曲想のイメージをもつことや、その言語化には難しさを感じている。
	E (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で進んで行動できる。学級内の仕事を率先して行い、学級のために貢献する姿がよく見られる。学級での話し合い活動でも率先して意見を述べて、集団を導くことができる。その一方で、自分が話したいことや伝えたいことがあるときに、詳しく説明したい気持ちから、なかなか話を切り上げないところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽CDやインターネットなどを利用して日常的に音楽に親しんでいる。音楽表現することへの関心・意欲も高い。 ●歌唱では、正しく音程が取れ、大きな声で歌うことができる。 ◎鑑賞の能力は高く、わかりやすい曲なら、曲想と音楽を形づくっている要素との関係を結びつけて考えることができる。
	F (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・軽度の自閉的傾向があり、体を揺らしたり室内を意味もなく歩き回ったりすることがある。 ・見通しを持って生活することが苦手である生活の流れを確認することである程度規則正しく過ごす。積極的に周囲に話しかけることはあまりないが、話しかけられれば対応はできる。挨拶は積極的にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きなアニメの曲などはよく覚え、時々口ずさんでいる。好きなCDを持参し、日常的に音楽に親しみがある。 ●歌唱では大きな声を出すのが、注意散漫で歌い出しのタイミングがずれることがある。 ◎曲想のイメージの言語化は比較的得意で自分のイメージを文章で表せる。

	G (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくフレンドリーな性格であり、生徒や教員と幅広く交流することができる。何事にもリーダーシップを発揮し行動できる。情緒障害があり、自分の思うようにならないと諦めようとしたり、怒ったりする。クールダウンの時間をとってから話を聞くと落ち着いて物事を振り返ることができる。 ・ブラジル国籍だが、日常生活レベルの日本語能力に問題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽活動が好きで、意欲的に取り組んでいる。ブラジル国籍であるため、サンバに親しみを持ち、世界の音楽に関心が高い。 ●歌唱の能力は高く、正しい音程で抑揚をつけて歌うことができる。 ◎曲想のイメージの言語化も困難なく行う。
	H (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気に人と関わることができる。何事にも意欲を持って前向きに取り組むことができる。お手伝いをするのが好きである。語彙が少なく、言葉の理解ができないことも多く、こちらが伝えたいことが正確に伝わらなかったり、伝えたいことの表現に困り、途中で諦めてしまったりすることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットなどを利用して、家でもよく歌を聴いたり歌ったりしている。音楽の授業が好きで、関心意欲は高い。 ●音程を正しく取ることは難しいが、一生懸命歌おうとする。 ◎曲想のイメージの言語化は、言葉に対する苦手意識があるため、多少の困難はある。
7 組	I (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳1級（二分脊椎によるぼうこう・直腸機能障害3級、疾病による両下肢機能の著しい障害2級）常時、装具を着用して歩行。状況次第で車椅子使用。車椅子の操作は自分でできる。自己導尿を約2時間おきに行う。 ・人見知りで、緊張して声が小さくなる。慣れてくると笑顔も見せる。わからないことがあっても、なかなか自分から聞けずにいることがある。人間関係ができている相手には自分から質問できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に音楽を聴いたり、カラオケで歌ったりすることもあり、関心は高い。 ●音程も取れ、良い声で歌おうと発声の仕方を意識している。 ◎曲想のイメージの言語化は、厳しい場面もある。
	J (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰とでも明るくコミュニケーションをとることができる。授業中、思いつきやその場の状況に対して反射的にしゃべっているため、内容は支離滅裂なことが多い。指示がよくわからないまま行動してしまうこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌うことは好きで、積極的に活動に参加できる。 ●声の音色に特徴があり、大きな声で歌うため合唱の中だと目立つことが多い。音程をとることは難しい。 ◎曲想のイメージの言語化は少し難しい。曲に対してではなく、今の気分や思いつきを表出してしまう傾向にある。
	K (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・口数はあまり多くなく大人しいが、やるべきことをテキパキと行うことができる。思ったことを言葉に表すのに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業への参加態度は控えめだが、授業の流れに乗って活動でき、歌ったり演奏したりする意欲は見られる。

	人見知りな面がある。普段から話す声は小さいが最近は大きな声で話すよう心がけている。環境に慣れてくると笑顔を見せる。挨拶等、礼儀正しく行える。	●声量はやや小さいが、音程は正確に取ることができる。女子で集まると自信をもって発声できる。 ◎曲想のイメージの言語化は問題なく行えるが、自分の考えを伝えたり発表したりすることが苦手である。
L (男)	・優しく思いやりがあるが、気恥ずかしさやプライドの高さがある。苦しいことや面倒なこと、自信のないことから、極力、足を遠ざけたいと思う気持ちが強い。 ・全般的に聴覚優位である。文字に関しては書字、読字に困難さがあり、アウトプットにトラブルがある。生活経験の中で身につけた語彙が豊富で大人との会話には十分対応できる。	○普段からJ-popなどの音楽をよく聴きダンスを踊ることが趣味なため、音楽への関心・意欲は高い。 ●音程も取れ、指導者が促すと大きな声で歌うことができる。 ◎曲想やイメージの言語化は問題なく行う。

4 題材設定の理由

本校の文化祭である「こうよう祭」では、毎年、産業科の生徒全員によるステージ発表が行われる。発表内容は毎年、音楽科の教員が検討・決定し、今年は「合唱」と「器楽を合わせた歌唱」の2つに取り組むこととした。この2つでは、演奏方法はもちろん、楽器が加わることで求められる表現方法の工夫も異なるため、平行して対比させながら学習することで、それぞれの学習内容を深められると考え、設定した。本題材における教材である「糸」と「風になりたい」は、それぞれの発表内容に当たるものである。

2曲の曲想は例えるなら「静」と「動」で対比できるものであり、生徒がわかりやすく異なるイメージをもつことができる。つまり、本題材における「合唱」を「静」、「器楽を合わせた歌唱」を「動」と捉えるということである。「静」と「動」をそれぞれ表現するには、強弱や抑揚の付け方、テンポ感、楽器の鳴らし方など、表現方法の工夫に違いが求められる。このように全く異なるイメージをもつということは、それぞれの曲想に合わせた強弱や楽器の鳴らし方を工夫して表現することの必要感につながると考える。

また、2曲の曲想のイメージについて理解したり、味わったりする「鑑賞」を関連させて学習することで、生徒が「それぞれの曲想のイメージを生かした表現を工夫したい」という意識をもつことができると考える。その意識を、曲想に合わせて強弱表現を工夫したり、楽器の音色を生かして演奏をしたりすることにつなげ、学習を深められるものであると考える。以上の理由から、本題材を設定した。

本題材で扱う中島みゆき作曲の歌謡曲「糸」は、親しみやすく明快なメロディーや、人生における出会いや愛のあり方について歌う歌詞が印象的な曲である。原曲を知っている生徒も多く、親しみやすい曲であるため、歌唱活動に意欲的に取り組みやすいと考える。「こうよう祭」に向けた長期間の学習では、学びに向かう高い意欲を持続できるようにすることが求められるため、曲に対する親しみやすさも重視し、設定した。また、美しいメロディーを歌う楽しみや、人生において大切なテーマを歌う奥深い歌詞についても扱いながら深い学習ができることを目指している。その他、本教材はソプラノ・アルトの2部合唱になっているが、本校の生徒は、歌唱において正確な音程を取ることが難しい生徒が多いため、同学年で同じパートで揃えた方が、授業の際に練習しやすいことを踏まえ、1年生がアルトパート、2、3年生がソプラノパートを担当するよう定めた。

一方で、歌唱・器楽合奏で扱う「風になりたい」は、日本の音楽グループである THE BOOM による楽曲であり、「日本のサンバを作りたい」というボーカル・宮沢和史のひらめきから作られ、原曲では多くのパーカッションを使用している。今回の「こうよう祭」の発表では、ピアノ伴奏による「風になりたい」を斉唱しながら、生徒の手作りシェイカー（ペットボトル）を基本に、サンバに使用される楽器（アゴゴ、クイーカ、サンバホイッスルなど）を用いた合奏を取り入れて演奏する。

この楽曲も最近CM等で使用されるなど、生徒達にとって親しみやすいものであり、興味・関心をもって学習に取り組めると考える。また、ブラジル音楽であるサンバの学習にもつなげることができ、今後の世界の音楽についての学習の導入としても適切であると考えた。リズムの特徴を知覚・感受しやすく、生徒達が打楽器に親しみを持ち、楽しみながら演奏できることも設定の理由の一つである。シェイカーを振りながら歌い、中間の間奏部分では打楽器アンサンブルの演奏をする構成にすることで、サンバのリズムの学習を生かせるよう設定した。

本題材は、特別支援学校高等部学習指導要領音楽科の1段階（1）「いろいろな音楽をその美しさなどを感じ取りながら鑑賞する。」1段階（3）「打楽器や旋律楽器などに親しみ、その演奏の仕方に慣れ、気持ちを込めて合奏や独奏をする。」1段階（4）「歌詞の内容を感じ取って、独唱、斉唱、簡単な合唱などをする。」に対応する内容である。

また、鑑賞における曲想のイメージの言語化や共有活動は、同学習指導要領第1章第2節第4款5（3）「生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。」に対応する内容である。

5 指導目標

（1）題材の目標

- 曲想のイメージをもとに、表現を工夫して歌唱・合奏する。
- 曲想の特徴を感じ取り、自分なりのイメージを言語化して共有し、楽曲を味わう。

（2）個別の指導計画と本題材における個別の指導目標

名前	個別の指導計画	本題材における個別の指導目標
A男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を工夫して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識した強弱や抑揚をつけて歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。
B男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を意識して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識して歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードや自分の文章で表現し、楽曲を味わう。
C男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を工夫して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを自分の言葉で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた強弱や抑揚をつけて歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードや自分の文章で表現し、楽曲を味わう。

D女	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を意識して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識して歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。
E男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を工夫して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを自分の言葉で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた強弱や抑揚をつけて歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードや自分の文章で表現し、楽曲を味わう。
F男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を意識して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識して歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。
G男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を工夫して歌う。 ・サンバのリズムをサンバホイッスルで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを自分の言葉で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた強弱や抑揚をつけて歌唱・合奏する。 ・サンバホイッスルの役割を理解して演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードや自分の文章で表現し、楽曲を味わう。
H女	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を意識して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識して歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。
I男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を工夫して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを自分の言葉で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた強弱や抑揚をつけて歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。
J男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を意識して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識して歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。
K女	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を意識して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識して歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。
L男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた表現を工夫して歌う。 ・サンバのリズムをシェイカーで演奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合わせた強弱や抑揚をつけて歌唱・合奏する。 ・曲想の特徴を感じ取り、曲想のイメージについてワードカードを使って表現し、楽曲を味わう。

6 指導計画（全13時間）

時	●学習のねらい ・学習活動
1 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ●「糸」の2部合唱を通して、強弱を工夫した表現を工夫する。 ・「糸」の各パートの旋律を確認し、2部合唱に親しむ。 ・2部合唱と強弱との関わりを学習し、強弱を工夫して2部合唱の表現を高める。
6 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> ●「風になりたい」の歌唱・器楽合奏を通して、サンバの音楽に親しみ、その特徴を生かした表現を工夫する。 ・「風になりたい」を、サンバのリズムなどを意識しながら歌唱する。 ・リオのカーニバルの鑑賞をし、サンバの音楽と踊りや衣装など文化的・歴史的背景との関わりを理解して味わう。 ・「風になりたい」に分担した楽器を取り入れ、歌いながら打楽器を演奏し、サンバの音楽の特徴を生かした表現を工夫する。
11 本時	<ul style="list-style-type: none"> ●曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化して共有し、自身の思いと関連させ、表現を工夫する。 ・曲想のイメージを、ワードカードを使って言語化し、意見交換する。 ・意見交換によって出たイメージをまとめ、全体で共通のイメージをもつ。 ・イメージを音楽表現にどのように生かしていくか、イメージと音楽を形づくっている要素（強弱・速さ・声色など）とを関連させる。 ・共有したイメージと工夫する音楽を形づくっている要素を意識し、歌唱・合奏する。
12	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちの演奏を客観的に捉え、表現において工夫した点などの意見を共有し、本題材の理解を深める。 ・本番の演奏を録音、録画し、客観的に自分たちの演奏を聴き、学習を振り返る。 ・曲想のイメージを共有したことが演奏に生かされているかどうか、意見交換し、本題材の学習内容をまとめる。

7 指導方針

曲想やイメージの共有活動では、ホワイトボードを各生徒が使用し、そこに自分のイメージを記入する。「楽しい」「熱い」「固い」などの様々な形容詞をワードカードとして用意し、それを自分のホワイトボードに貼るだけでもよいとし、イメージを文章で表現するのが難しい生徒でも苦手意識をもたずに取り組めるようにする。また、ワードカードにない言葉を使いたい生徒や、文章で書きたい生徒のためにマーカーも用意し、それぞれの生徒の実態に合わせた表現方法を選択できるよう支援する。

また、3～4人の少数編成のグループ活動を設定し、全員が必ず発言や自分の意見の発表ができる環境を整えることで、生徒が主体的に活動に参加できるようにする。班員は発言力や学習の実態、生徒の関係性等を踏まえ、バランスを考えながら事前に編成しておく。

8 本時の学習

(1) 共通の目標

○曲想の特徴を感じ取り、共有したイメージを基にして歌唱・合奏の表現を工夫できる。

(2) 個人目標

名前	個人目標
A男	・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
B男	・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
C男	・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明する。
D女	・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
E男	・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明する。
F男	・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
G男	・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明する。
H女	・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
I男	・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
J男	・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
K女	・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明する。
L男	・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏する。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明する。

(3) 準備

ワードカード、ネームプレート、ミニホワイトボード、ホワイトボードマーカー、観賞用CD、カメラ

(4) 展開 (本時は12時間扱いの11時間目)

時間	学習のねらい ・生徒の学習活動	教師の支援及び留意点	関連項目	評価の観点
15分	○本時の学習内容の見通しをもつ。			

<p>導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りをする。 ・「糸」と「風になりたい」を演奏する。 ・本時の学習内容を理解し、目標をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの活動を生徒の言葉で振り返られるようにする。 ・授業の初めに、発表曲を全曲演奏する時間を設けることで、生徒が自分たちの演奏の現在の完成度や課題を確認できるようにする。 ・T1は指揮、T2は伴奏を行う。 ・最初の演奏に対し、「曲想のイメージをもって演奏していたか。」 「イメージをもつと演奏が変わると思うか。」 「2曲の曲想は同じイメージであるか。」 「2曲は同じ気持ちで演奏して良いのか。」等の質問・発問をし、本時の学習内容である曲想のイメージの言語化・共有活動の必要性を意識できるようにする。 	<p>自立活動3 (4) 6 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問に答えたり、友達の発言を聞いてうなずいたりするなどして活動への参加意欲が見られるか。
<p>15分展開 ①</p>	<p>○曲想の特徴を感じ取り、イメージを言語化して共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「糸」と「風になりたい」を鑑賞し、2曲の曲想のイメージについて考える。 ・2曲の曲想のイメージについて、ワードカードやペンを使って自分のホワイトボードに書き、グループ内で発表し合ってまとめる。 ・各グループのリーダーが、グル 	<ul style="list-style-type: none"> ・2スペースに区切ったホワイトボードを用意し、ワードカードやペンを使って言語化した曲想のイメージを比較しやすいようにする。 ・知覚・感受したことや想像したことを言語化することが難しい場合はワードカードを主に使用する。またはイラストの描写などでもよいと伝える。 ・発表の仕方について迷わないよう、「私は、糸を聴いて○○、○○というイメージを持ちました。なので、～～のように歌いたいです。」という例文を提示する。 ・「この部分がやわらかく感じたので、やさしく弱く歌いたい。」など、具体的な箇所や、イメージの根拠について話せるよう助言する。 ・グループ用のホワイトボードでは、共通した意見や異なる意見を分けてまとめられる 	<p>自立活動3 (2) 6 (3)(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる2曲の曲想の違いを感じ取り、ワードカード等を通して比較することができたか。 ・自分のイメージに近いワードカードを選んだり、文章で表したりできたか。 ・ワードカードを選んだ

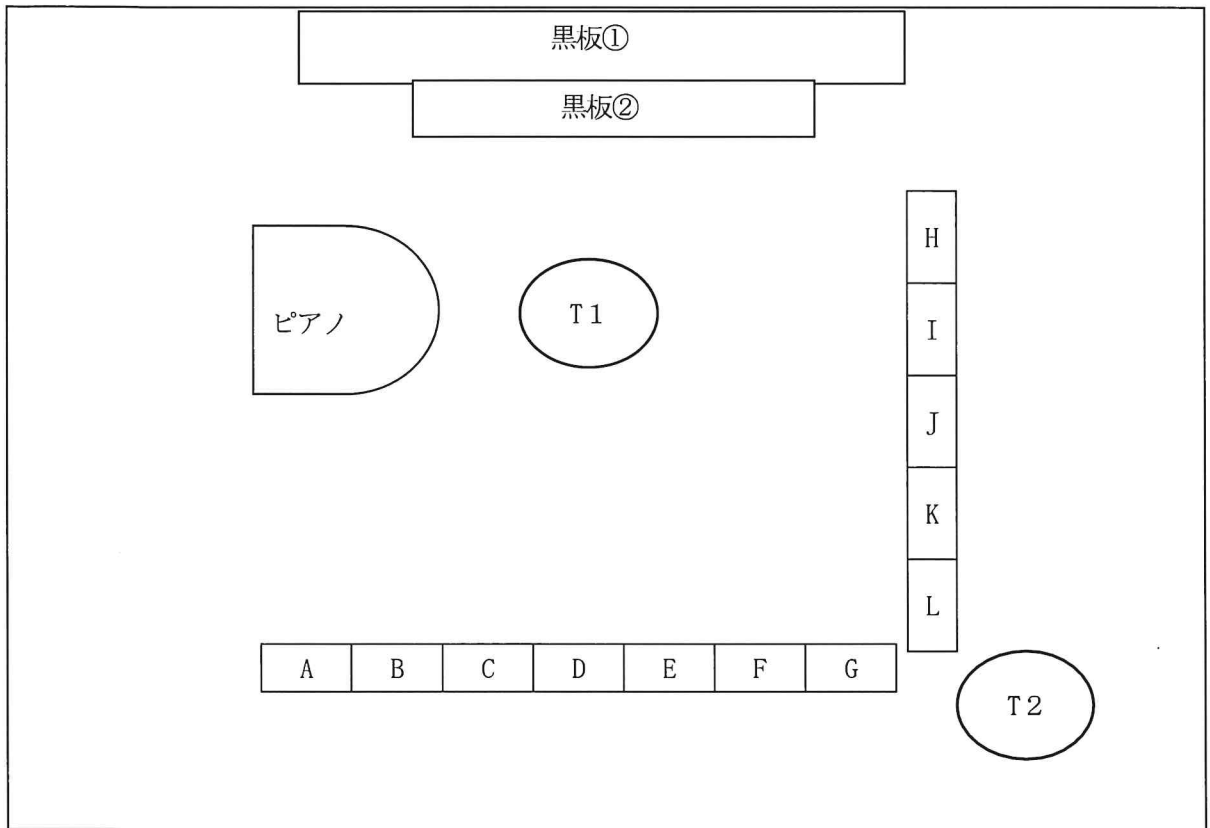
	<p>ープ用のホワイトボードを使って発表する。</p>	<p>よう、あらかじめ分割しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人以上が同じワードカードを使っていた場合は共通したイメージとしてまとめるよう声かけをする。 ・話の論点がそれているグループには「どんなイメージが多かった？カードを使ってまとめてみよう。」等の声かけをし、軌道修正をする。 ・グループから出た意見をまとめ、全体で演奏するための共通したイメージを生徒の意見からまとめられるようにする。 		<p>理由を自分なりの言葉で伝えることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発言に耳を傾け、意見を共有・交換できたか。
12分 展開 ②	<p>○曲想の特徴を、音楽を形づくっている要素と関連させて表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを見比べて、全体の共通のイメージを考える。 ・共有したイメージを基に、強弱・抑揚・テンポ感などを意識しながら2曲を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに共通したイメージをまとめ、全体で演奏するための共通したイメージを生徒の意見からまとめられるようにする。 ・曲のイメージをどのように演奏に生かしていくか発問し、強弱などの音楽の要素と関連できるようにする。その際、ホワイトボードに書かれたイメージワードと音楽の要素を結びつけるようにペン等で記し、関係性をわかりやすく示す。 	<p>自立活動3 (2) (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを元に工夫した演奏ができていたか。
3分 まとめ	<p>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時に学習した曲のイメージの学習を振り返り、本番に向けてどのような意識をもって練習したらよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通のイメージをもつことで、本番は気持ちの一つにして演奏できるということを生徒自身が気付けるようにし、表現することへの意欲を高められるようにする。 	<p>自立活動3 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、感想の発表や挙手ができたか。

5 評価

名前	評 価
A男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
B男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
C男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明できた。
D女	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
E男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明できた。
F男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
G男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明できた。
H女	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
I男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
J男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
K女	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱に気をつけながら演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選び、自分なりの言葉で説明できた。
L男	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を意識し、強弱や抑揚を工夫して演奏できた。 ・曲を聴いて自分のイメージに近いワードカードを選んだり文章で表したりし、音楽を形づくっている要素を意識して説明できた。

6 配置

(1) 基本位置



(2) グループ活動時の配置図

A班 (A男, B男, E男, K女)、B班 (D女, G男, J男, L男)、C班 (C男, F男, H女, I男)

